



# PREX NOW



財団法人 太平洋人材交流センター  
Pacific Resource Exchange Center

## contents

page 1 ●メッセージ  
2010年を迎えて

PREX会長 井上 義國

page 2~3 ●ニュース&レポート  
30周年を記念して集うアセアンの同窓生

page 4 ●研修参加者の声  
マレーシアの行政官が学んだ日本のマネジメント

page 5 ●協力企業特集  
株式会社Terrace / 辰田製作所  
株式会社ヤマシタワークス / 株式会社ヒューマンロジック研究所

page 6 ●PREXだより  
事務局ニュース、人の動き、  
1・2月実施の主な研修、研修実績



途上国と関西にとって、  
なくてはならない  
存在になることをめざす。



## 2010年を迎えて

PREX会長 井上 義國

あけましておめでとうございます。

PREXは今年4月に設立20周年を迎えます。今年3月末までの研修受講者は13,000名を超え、研修対象国は124か国・地域となる見込みです。PREXの卒業生たちで結成する同窓会もアジア太平洋地域を中心に13か国・地域にのびました。関西の民間

企業からPREX事務局の職員として出向いただいた方は延べ71名(19社より)にも達し、PREXの活動へ絶えず新しい知恵と力を注入していただきました。

昨年もこれまでと同様に活発な活動が継続できたのは、ひとえに、関係省庁、政府関係機関、関西の企業、自治体、学界、経済団体など関係各位の多大なるご支援、ご協力の賜であり、厚くお礼申し上げます。

この20年間でPREXは途上国の人材育成に必要な多分野にわたるノウハウを蓄積し、また貴重な人的ネットワークも構築してきました。しかしながら、PREXを取り巻く環境は変化し続けております。過去の経験だけに頼ることなく、時代の変化に対応した新たな取り組みにチャレンジすることが、PREXの今後の発展にとって最大の課題です。

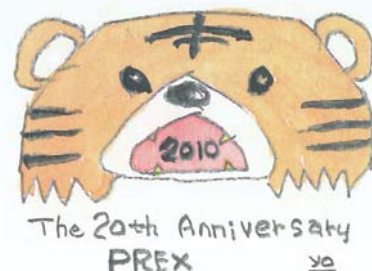
そのために①国内外のネットワークを活用した企画提案活動の強化②環境問題、留学生育成支援をはじめとする新たなテーマへの取り組み③関西の国際協力のプラットフォームとしての機能強化、シニアを含む多様な人材の更なる活用④PREX同窓会会員、帰国研修員とのネットワークの更なる強化⑤厳しい基金運用環境下での、自立した事業運営基盤の確立などに取り組む必要があります。

昨年8月、総選挙の結果、民主党の鳩山政権が生まれました。新政権のODA政策は明らかではありませんが、「東アジア共同体」構想を掲げるなど、アジア重視の姿勢を基本としています。いずれにしてもアジア・太平洋地域の途上国の人材育成支援の重要性はますます高まり、本年はPREXの存在をアピールする絶好の機会となります。PREXは引き続き、途上国の中堅マネージャー育成の支援と、研修事業を通じた関西の国際交流の活発化という基本理念のもとに活動を続けます。

「設立20周年記念事業」は事務局を中心に検討中です。内容が固まり次第、関係各位へご案内いたしますので、にぎにぎしくご参加くださいますようお願い申し上げます。

また、当財団は本年秋頃を目途に新公益法人制度に基づく公益財団法人への移行申請を予定しております。これに伴い、理事会、評議員会の構成、定数などを抜本的に見直す方針です。

「途上国にとって、また関西にとって、PREXがなくてはならない、なくなつては困る存在に発展すること」をめざし、職員一丸となって努力を続ける所存です。関係各位の引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。





# 30周年を記念して集うアセアンの同窓生

記念シンポジウム フォローアップ研修 「関経連アセアン経営研修」30周年記念事業

関西経済連合会がアセアン諸国の企業経営幹部を対象に、「関経連アセアン経営研修」をスタートさせて30年たった。当初は1ヵ国ずつ5名規模で実施したのが、今や10ヵ国15名規模にまで広がっている。経済環境が変わると企業経営のスタイルも変わる。その変化、求められる企業経営スタイルに対応できる人材の育成、人材育成分野における関西の取り組みなど、30周年記念行事としてインドネシア・ジャカルタで話し合った。同窓生、アセアン各国の経済団体、アセアンの企業などが参加した。

PREXは、1990年から関西経済連合会から本研修を受託し実施してきた。また本事業には、支援団体として企画運営に携った。



「関経連アセアン経営研修」30周年を記念してインドネシア・ジャカルタに集まったアセアンの同窓生たち。



下妻 博氏

関西経済連合会  
会長

「関経連アセアン経営研修」30周年記念事業を開催できたことを大変うれしく思う。この30年間に、本研修にご参加いただいた皆様、並びにインドネシア商工会議所(KADIN)やインドネシア・日本企業家協会(HIMPUNAN)をはじめとする協力団体などご協力を賜った皆様に対し、心より感謝申し上げます。

## ■ 日本・アセアンの経済関係

日本とアセアンの経済的な結びつきは、近年ますます強固なものとなってきている。日本のアセアンとの貿易総額(輸出+輸入)は、約22兆円で、中国、米国と並ぶ最

大の貿易パートナーである。

アセアンにとっても日本は、中国やアメリカ、EUと並ぶ最大の相手国となっている。日本とアセアン諸国は、相互依存関係を深めている。

具体的には、貿易、投資などの実体的な経済関係の発展に加え、経済連携協定(EPA)や包括的経済連携(CEP)協定の交渉、さらに金融面での協力など、将来的な東アジア全体の経済統合も視野に入れた動きが加速している。

さらに、2008年7月に発効した「日・インドネシア経済連携協定」によって、今後は貿易・投資だけでなく、多方面の交流が活発化することが期待される。

## ■ アセアン経営研修

関西の企業は、日本の中でも比較的早い時期から、インドネシアをはじめアセアン各国に進出し、関係を深めてきた。

「アセアンの経済発展を人材育成の面で応援していきたい」—こうした思いから、

関経連は、1980年に「アセアン経営研修」を開始した。アセアン各国の企業経営幹部を対象に、日本的経営の特色を学び、日本企業のみならずグローバルな視点でビジネスを円滑に行う目的で実施してきた。

この研修では、30年間で現地研修を含めると約1千名の研修生が受講し、アセアンの経済界はじめ各界に人材を輩出してきた。これもひとえに、アセアン各国の協力団体の皆様のご支援がなければできなかったことであり、御礼申し上げます。また、日本・関西においては多くの企業、特に中小企業に受け入れなどで協力をいただいた。この場を借りて御礼申し上げたい。今回、関経連は「ジャカルタ宣言」という形で、「アセアン経営研修」に加え、関西が強みを有する環境・省エネの分野で新しい環境人材事業を実施していくことを打ち出した。今後ともPREXと連携しつつ、アセアンの発展のために、人材育成事業への取り組みを強化してまいりたい所存である。



パネルディスカッションの様様。インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナムを代表したパネリストからアセアンの関係強化に資する人材育成のあり方について意見が述べられた。



シンポジウム閉会の挨拶では下妻関経連会長から「ジャカルタ宣言—アジアを世界の環境先進地域に」が発表された。



フォローアップ研修ではインドネシアの同窓生の企業を訪問。

## 担当者のレポート

### ■ 懐かしい同窓生の顔ぶれ

「三浦さんだよね。」受付にいと、次々声がかかる。アセアン各国から、同窓生が集まってきたのだ。それぞれ違う思い出を持って。

今回の一番懐かしい同窓生は、1980年代に参加された研修員（フィリピンとシンガポールからの参加）だ。

案内状を見て、大阪滞在を懐かしく思って参加したとのこと。「訪日研修で松下電器（当時）に表敬訪問したときは、松下正治会長だったよ。今回息子さんに会えるんだ」と時代を感じさせる発言。

参加当時すでに経営幹部だった彼らは20年たった今、ますます忙しくされている。

「日本に行ってきたところだよ」とシンガポールの同窓生は言う。ピューター（錫を主成分とする合金）製品で有名な Royal Selangor の役員だ。「研修を受けてから日本は身近になったよ。日本人との付き合い方もうまくなったかもね。」と、市場開拓に余念がない。次はどこに行くのだろう。

### ■ 固い絆で結ばれるアセアンの同窓生たち

「関経連アセアン経営研修」はたった1週間の訪日研修だが、アセアン各国からの研修参加者は、ともに過ごした仲間同士、研修後も連絡を取り合っているとよく聞く。

今回参加した1996年の同窓生も結束が固い。アセアン出張の度に連絡を取り合い、時間を見つけては食事をしたりするという。中には家族ぐるみの付き合いになっている人もいるようだ。

研修を企画するPREXとしては、研修で得たことが企業経営に役立てばと願っている。学んだ知識を仕事に活かしてくれる話もうれしいが、このように友情が育まれていると聞くと、これもまたうれしい。今回もセミナー終了後、早速同窓生同士で出かけて行った。インドネシア、フィリピン、シンガポール、そして、日本。これからもいい関係でいたい。



懐かしい同窓生の面々と。

### ■ 日本の生産管理を導入し成功する インドネシア同窓生

そして、ホスト国であるインドネシア同窓生。場を盛り上げようと、多くの同窓生が参加してくれた。中でも企業訪問を受け入れてくれた同窓生に感謝したい。

彼の会社の工場では、日本の生産管理方法を導入し、順調に業績を伸ばしている。5S、カイゼン、カンバンなど、インドネシア従業員にとっては初めての概念だったことから、浸透するまで1年はかかったそうだ。日本の工場から見たらまだまだ改善しないといけないところは多いが、「改善しつづける」との力強い言葉を述べたこの企業はまだまだ伸びそうだ。

「40周年でまた会おう」が私たちの合言葉になった。その時には何をしているのだろう。お互い胸をはって、これから10年の歩みを報告したい。

— 国際交流部 担当課長 三浦 佳子

### 「関経連アセアン経営研修」 30周年記念事業

◎開催場所 インドネシア・ジャカルタ市

◎記念シンポジウム

開催日 2009.11.10

参加者 アセアン経営研修同窓生、各国の協力団体、インドネシア商工会議所、日本大使館、ジャカルタ・ジャパン・クラブ、使節団メンバー、プレスなど150名

《プログラム》……………

テーマ 「変化するアセアン経済と日本・アセアン間の関係強化に資する人材育成のあり方」

主催者挨拶 下妻博 関経連会長

来賓挨拶 ・クスマ インドネシア商工会議所

日本・インドネシア経済委員長

・ダルマディ インドネシア工業省運輸・通信機器総局長

・西村英俊 東アジア・ASEAN経済研究センター事務総長

・塩尻孝二郎 特命全権大使

基調スピーチ(1) 松下正幸 関経連副会長・国際委員長

基調スピーチ(2) サヤカーン・アセアン事務局次長

パネル・ディスカッション

●モデレーター 小田野純丸 滋賀大学経済学部教授

●パネリスト ・クスマ インドネシア商工会議所委員長(インドネシア)

・サティット 元タイ投資委員会長官(タイ)

・フィリップ サンテ社社長(フィリピン)

・フン ベトナム商工会議所 ホーチミン市支部副支部長(ベトナム)

閉会挨拶 下妻博 関経連会長(ジャカルタ宣言)

◎同窓生フォローアップ研修

開催日 2009.11.11

テーマ 「これからのアセアンで求められる企業経営と人材育成の役割」

内容 インドネシア同窓生の企業への訪問と討議

参加者 計40名

① 「関経連アセアン経営研修」同窓生

② アセアン各国のカウンターパート

お世話になった方々、企業・団体他（敬称略、五十音順）  
滋賀大学 小田野純丸教授、インドネシア商工会議所、松下コーベル財団

## TOPIC 互いに学ぶ研修に

「日本の経営を学びたい」と始まった本研修は、1991年にPREXが受託始めた頃も、参加者の目的は同じであった。年功序列、終身雇用、労働組合によって、日本企業の経営は順調に伸び、良質の日本製品が市場にあふれていた。

研修の訪問先は、関経連の会員企業を中心とした大企業を選んだ。アセアンへの進出を考える日本企業も多く、アセアン参加者の企業を通じて、投資情報をもらうといったビジネスマッチング的な要素もあった。

2008年12月に行った29回目の研修でも、もちろん日本企業の経営について学ぶという目的は変わらない。しかし「日本企業から学ぶ」ではなく、「お互いに学ぶ」研修へと進化した。

世界には工場は日本国内1ヵ所しかなくても、従業員が10名程度でも、国際市場のシェアトップになる企業がある。企業は社会的責任を負っていること、時代の動きを読み切ること、従業員との対話を絶やさないこと、人材育成を怠らないこと、そして、他社に負けない独自製品を開発すること。訪問させて頂く企業からだけでなく、参加者同士の議論からも優れた経営を学びあう研修に発展した。



## マレーシアの行政官が学んだ日本のマネジメント

受入研修 経営管理 マレーシア行政中間管理職研修

本研修では、マレーシアの行政官が日本の優れた経営を座学で学ぶとともに、さまざまな日本の行政機関、民間企業を訪問して、現場で行われている多くのマネジメント事例を学んだのが特徴であった。主要テーマは「リーダーシップ」、「組織マネジメント」、「リスクマネジメント」、「人材育成」である。以下、最終日に纏めた研修員の個人レポートから、彼らが学んだ点を4人の研修員のレポートから抜粋して紹介する。



### 市民が「顧客」

アンワルさん (Mr. Anwar Bin Mohd Zain)  
クアラランプール市 総務部 次長

私が所属するクアラランプール市は、マレーシアの首都で、東南アジア有数の大都市。2020年までにマレーシアを先進国入りさせるという国家ビジョン「ビジョン2020」に基づいて都市開発に取り組んでいる。私は総務部次長として市長や幹部とともに組織運営に携っており、45人の部下が6つのグループに分かれて日夜課題に取り組んでいる。市民へのサービス提供システムの改善や組織運営、長期的な人材育成などに課題がある。

今回の研修を通じて、日本の政治や行政制度の基本を理解することができた。日本はマレーシアの行政制度とかなり異なる。しかし、部下とのコミュニケーションを大切にすること、チームで課題に取り組むこと、「顧客」である市民を中心に考えること、つねに「カイゼン」に取り組むこと、重要な案件を決定するには事前の「根回し」という独特の方法があることなど、日本的な職場運営について多くを学んだ。



### 企業独自のマネジメントスタイルに感銘

ハリムさん (Mr. Abd Halim Bin Ashaari)  
首相府 調査部 次長

訪日前は、着物、相撲、茶道、華道、地震、家電製品というありきたりのイメージしかなかったが、27日間、企業や行政機関を訪問し、私の日本と日本人のイメージは大きく変わった。日本人は組織への帰属意識、労働意欲がとても高い。終身雇用制度や社員のやる気を高める経営がその秘訣だと思う。日本では個々の企業が独自のマネジメントスタイルを確立している。今回様々な経営者の話を聞き、現場を訪問し、日本の企業がどのように目標達成に取り組んでいるか、社員がいかんして自分の職責を果たそうとしているかが非常によく理解できた。

マレーシアの行政の規則や規制に合った形で、このやり方を活かせば、私の課題も現場で解決できるというヒントを得ることができた。



### 日本人の「もてなしの心」

マーズさん (Ms. Maziyah Binti Hj Hazlan)  
教育省 大学入試部 部長補佐

日本の企業を訪問して、管理職が自分自身の役割を十分に果たしていれば、組織の結束感を高め、部下との協力的関係を築くことができることに感動した。社員の働く様子から強い責任感や熱意が感じられた。訪問した企業・行政部門で紹介された「組織マネジメント」の個々の取り組みは、自分自身の職場運営においてもとても参考になった。

特に、顧客や来訪者を迎え入れる温かい「もてなしの心」、これを来客が多い私の職場にも浸透させ、日本企業にあるような生き生きとした「職場風土」を創りたい。



### 「人材育成」のコツ

クリスさん (Ms. Christia Lau Kieng Hung)  
サラワク州 国土地理院 シブ所長

マレーシアでは、私は州の国土開発部門の責任者を務めており、組織のマネジメントや人材育成についても課題を抱えている。若手の改善提案に対する幹部の抵抗や自分の能力向上の必要性、仕事の緊急性を意識していない部下の存在などである。

今回学んだ日本のマネジメントで、もっとも重要な要素は部下の「モチベーションをいかに高めるか」という点だ。多くの企業がさまざまな工夫を取り入れていた。経営者は部下をグループとみなすのではなく、個性を持った「個人」と捉え、各人の長所を活かすことを大切にしていた。中でもパナソニック社の人材育成、松下幸之助創業者の経営理念のエッセンスは多くの示唆を与えてくれた。

今回の研修は、様々な国の制度に関する事例や比較検討ができる場があれば、日本の政治、行政制度における特徴などがより理解しやすかったと感じている。また、私たちは行政官なので、自治体や公的機関のマネジメントの事例についても、もっと知りたかった。

色々日本のよさを学び体験したが、一つだけ、日本では英語が通じにくいのは不便だと感じた。

— PREXシニアコースリーダー 井上 久生

#### マレーシア行政中間管理職研修

- ◎実施期間 2009.10.19～11.6
- ◎研修参加者 マレーシアの行政機関に所属する中間管理職 14名
- ◎委託元機関 JICA大阪国際センター

#### お世話になった方々、企業・団体他 (敬称略、五十音順)

関西経済連合会 藤沢副参与、麗澤大学 ラウ教授、海外ビジネスコンサルタント 大西氏、松下幸之助歴史館、PREX杉本シニア専門家、関西生産性本部 鶴房氏、三重県商工会議所連合会 井ノ口専務理事、ダイキン工業、神戸市 石野係長、ユーパー、マレーシア大使館、人事院、ヒューマンロジック研究所、早稲田大学ビジネススクール 梅津教授、前滋賀県教育長 齋藤氏、旭電機化成、姫路市 危機管理室

## (株)Terrace

足元を幸せに

大阪市中央区 <http://www.terrace-japan.com/>

「中小企業振興政策(A) 中級コース」で訪問

同社は、心斎橋で婦人靴の販売を行う、お客様の足元を「照らす」会社。日本人にとって難しい靴選びを、親身になってサポートしてくれる。また、足に合わせた補正業務やアフターメンテナンスなども行っており、顧客一人ひとりの足に合った靴を提供している。森田社長は2年半ほど前に同社を設立され、今回の研修では創立までの経緯や苦労話、行政から受けた支援などについてご講義頂いた。研修員は日本の創業者への支援の実情を知るとともに、森田社長のひたむきに仕事に取り組まれている姿に刺激を受けたようだった。



研修員に「皆様の想いが大輪の花を咲かせますように」とエールを送ってくださった森田社長(後列左から3番目)。

## 辰田製作所

吉野杉の端材を利用 ～割り箸作りを体験～

奈良県吉野郡 [http://www.kuzunosato.jp/pages/shop/shops/i\\_tatsuta/index.html](http://www.kuzunosato.jp/pages/shop/shops/i_tatsuta/index.html)

「中米地域官民パートナーシップによる地域産業振興」で訪問

同社は、奈良県吉野町東部に位置する<sup>くず</sup>国栖地区で、吉野杉、桧を使った箸などの伝統工芸を守り続ける会社である。端材を活用した割り箸作り体験教室など、吉野材の良さを知ってもらう活動を積極的に行っている。研修員も実際に割り箸作りを体験。檜の箸を研磨し焼きゴテで家族の名前などを書き入れていた。その後、辰田社長と地域企業経営に対する思いなどについて意見交換。日本で流通している割り箸の9割以上が海外製品で占められる状況の下、国産品の魅力を伝え続ける同社の事業経営に、研修員は感銘を受けていた。



割り箸作りに奮闘する研修員。この時の「My箸(マイばし)」は活躍しているのだろうか?

## (株)ヤマシタワークス

独自の技術で光る

兵庫県尼崎市 <http://www.yamashitaworks.co.jp/>

「中小企業振興政策(A) 中級コース」で訪問

同社は、2006年経済産業省「元気なモノ作り中小企業300社」に選ばれた、元気溢れる企業である。山下社長は、以前の仕事で得たコーティング技術のノウハウ・知識を活かすべく、1986年に同社を設立した。創業時の苦労や、独自技術の開発話など、興味が尽きない講義をいただいた後、同社が誇る職人不要の金型鏡面加工機(エアラップ)等を見学。この装置を使ってネックレスをピカピカにしてもらった研修員は大喜び。社長が従業員との円滑なコミュニケーションを保つ秘訣として教えてくれた、「飲みニケーション」は研修参加者の合言葉となった。



実際の現場で丁寧に説明をしていただき、研修員は同社のオンリーワン技術への理解が深まった。

## (株)ヒューマンロジック研究所

高度な組織編成理論で企業の経営戦略をサポート

東京都中央区 <http://www.human-logic.jp/>

「マレーシア行政中間管理職研修」で訪問

同社は、東京に本社を置く、戦略的人事コンサルティング会社である。チームメンバー間の「相性・組み合わせ・関係性」を最適にすることで組織の潜在力を発揮し、生産性を高めるチームビルディングメソッドである「FFS理論」を駆使して、企業の経営戦略を、組織・人事面から強力にサポートしている。マレーシア政府の幹部職員である研修員は、代表取締役古野俊幸氏より、「FFS理論」を活用した組織編成について講義していただき、その実践的な内容に高い関心を持ち、それぞれの所属組織での応用に強い意欲を示していた。



研修終了後、古野代表取締役(中央後列)を囲んでの記念写真。



事務局  
ニュース

PREXシンポジウム開催!

2010年2月17日(水)午後より、piaNPO 6階にてPREXシンポジウム「つくり協力を通した相互理解の促進、人的交流の活性化—PREX事業の意義について考える—」を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしています。詳細は当財団ホームページ(<http://www.prex-hrd.or.jp>)をご覧ください。

人の動き

新任



竹澤 嘉雄 国際交流部 担当部長  
2009年11月16日付パナソニック株式会社より出向

これまでは商品を通じて海外の皆様とつながりを持ってきましたが、これからは開発途上国に対する各種支援活動という全く新しい分野・領域での仕事となります。ただ、お客様のニーズをきちっと把握し、日本のシーズを効果的にお客様に提供するというここでは、ビジネスの基本は同じと思っています。いろんな国の方々とお付き合いをさせていただけるということは、大変興味のある仕事であり、微力ながら全力で取り組む所存です。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

退任



深田 進 事務局次長  
2009年11月30日付付向期間満了、パナソニック株式会社を定年退職

2005年12月にPREXに着任してから4年間お世話になりました。この間、数多くの大学の先生、その道の専門家、そしてユニークな中小企業の経営幹部の皆様との出会いは新鮮な驚き、新たな学びでした。途上国からの研修員達との交流は、国際交流とは人と人とのスキップであるとの思いを強くするとともに、研修員達がいかに日本を見て、感じたかは自身にとっても日本の良さの再発見でもありました。微力ながらも人材育成・国際交流に関与できたのが喜びです。

これからのPREXのグローバルな活動と多様性を重んじる組織文化でさらなる発展を祈願します。ありがとうございました。

1・2月実施の主な研修

アジア地域 中小企業振興

- ◎期 間：2010.1.14～2.5
- ◎対 象 者：中小企業振興に関わる行政官 15名
- ◎委託元機関：JICA大阪国際センター

受入  
研修

中小企業政策セミナー 初級コース

- ◎期 間：2010.1.18～2.5
- ◎対 象 者：中小企業振興に関わる行政官 12名
- ◎委託元機関：JICA大阪国際センター

太陽光発電導入のための基礎研修

- ◎期 間：2010.2.3～26
- ◎対 象 者：太陽光発電、省エネに関わる行政官 18名
- ◎委託元機関：JICA大阪国際センター

海外  
研修

大阪府・上海市草の根技術協力事業  
「省エネ・ESCO事業」

- ◎期 間：2010.1.10～16(上海市、南京市)
- ◎対 象 者：省エネ・ESCO事業に関わる行政官 100名
- ◎関係機関：大阪府、JICA大阪国際センター

兵庫県・広東省草の根技術協力事業  
「資源循環社会における環境改善」

- ◎期 間：2010.1.26～30
- ◎対 象 者：環境改善事業に関わる行政官 30名
- ◎関係機関：兵庫県、JICA兵庫国際センター



*A Happy New Year*

新年明けましておめでとうございます。今年も局員一同よろしくお願ひいたします。

PREXの  
研修実績

2009年  
11月末現在

PREXは、1990年4月  
設立以降、開発途上国の  
人材育成事業と、  
その活動を通しての  
国際的人材交流促進に  
努めています。

- 研修累計(1990～)
- 436コース
- 受講者累計(1990～)
- 124カ国・地域 12,555名
- 【受入(訪日)研修 3,943名 /
- 海外研修 8,612名】

- 出向職員累計
- 19社から延べ71名
- 現在出向職員を派遣いただいている企業(50音順)
- 大阪ガス、関西電力、サントリーホールディングス、
- 住友電気工業、ダイキン工業、西日本電信電話、
- パナソニック